



2023年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年11月2日

上場会社名 株式会社ストリームメディアコーポレーション 上場取引所 東
 コード番号 4772 URL https://www.streammedia.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金 東佑
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画部門長 (氏名) 山田 政彦 TEL 03-6809-6118
 四半期報告書提出予定日 2023年11月9日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年12月期第3四半期の連結業績（2023年1月1日～2023年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第3四半期	7,499	36.2	366	—	376	—	318	—
2022年12月期第3四半期	5,506	31.6	△118	—	△104	—	△35	—

(注) 包括利益 2023年12月期第3四半期 993百万円 (—%) 2022年12月期第3四半期 △2,107百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第3四半期	2.75	—
2022年12月期第3四半期	△0.30	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年12月期第3四半期	13,573	7,739	50.0
2022年12月期	10,067	6,693	60.1

(参考) 自己資本 2023年12月期第3四半期 6,781百万円 2022年12月期 6,053百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年12月期	—	0.00	—	—	—
2023年12月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年12月期の連結業績予想（2023年1月1日～2023年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,273	31.0	84	—	88	—	70	—	0.61

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年12月期3Q	115,904,831株	2022年12月期	115,903,831株
② 期末自己株式数	2023年12月期3Q	9,809株	2022年12月期	9,675株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年12月期3Q	115,894,407株	2022年12月期3Q	115,894,222株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在しておりますので、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項につきましては、四半期決算短信〔添付資料〕3ページ 1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
第3四半期連結累計期間	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間における当社グループに関連する市場につきましては、コンサート市場は、コロナ前の2019年規模まで回復すると予想されています。一方、制作費においては、コロナ期間中にコンサート関連の人材が現場を離れた影響により人件費が高騰していることに加えて物価上昇も続いており、コロナ以前の水準には戻っていません。

このような事業環境の中でも当社ではチケット価格の見直しや、コスト管理の強化などの対策をしています。

メディア業界では、多チャンネルサービスの加入世帯減少傾向が続き厳しい状況です。ライツ業界では、韓国コンテンツの人气が継続しており新作版權の獲得競争が激化している一方、アーカイブ作品の視聴需要も高まっています。

このような厳しい経営環境の中ではありますが、積極的に事業を展開した結果、前期に続き当社グループの当第3四半期連結累計期間におきましても当初計画通りに推移しています。

エンターテインメント事業では、NCTグループが初の大型スタジアムコンサートを開催し計4日間で約22万人を動員した他、aespaが海外アーティスト史上最速での東京ドームコンサートを行い計2日間で約9.4万人を動員するなど、大型公演を中心に開催いたしました。エンターテインメント事業では当第3四半期連結累計期間において計80公演のオフラインコンサートを実施し約120万人を動員いたしました。

ライツ&メディア事業では、当第3四半期連結累計期間においてKPIに掲げているK-POPプレミアムコンテンツをKNTVで計10作品放送いたしました。11年ぶりにインドネシア・ジャカルタで開催された「SMTOWN LIVE 2023 : SMCU PALACE@JAKARTA with KB Bank」(以下「SMTOWN LIVE」)は東方神起や今年9月にグローバルデビューしたRIIZEをはじめとするSMエンターテインメント所属アーティストが計8組出演した大型コンサートで、KNTVにて生放送をいたしました。第4四半期では、年末に韓国地上波で放送される授賞式などの放送も予定しており、K-POPプレミアムコンテンツの拡充に注力しています。KNTVでは引き続き日本初放送のドラマ作品を数多く放送しながら、K-POPファン層へも新規加入促進を図ってまいります。

ライツ事業では、韓国コンテンツの人气高騰に伴いアーカイブ作品の視聴需要も依然高く、新規人気ドラマの獲得とともに保有作品の販売にも注力しています。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高7,499百万円(前年同期比36.2%増)、営業利益は366百万円(前年同期は118百万円の営業損失)、経常利益は376百万円(前年同期は104百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益は318百万円(前年同期は35百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりです。

(エンターテインメント事業)

コンサート事業では、大型コンサートを中心に24公演開催し、約45万人を動員いたしました。NCTグループが初の大型コンサート「NCT STADIUM LIVE 'NCT NATION : To The World-in JAPAN」(9月9日、10日、16日、17日)をヤンマースタジアム長居と味の素スタジアムで計4日間開催し約22万人を動員いたしました。その他にも、aespaが海外アーティスト史上最速での東京ドームコンサート「aespa LIVE TOUR 2023 'SYNK : HYPER LINE' in JAPAN-Special Edition-」(8月5日、6日)を行い計2日間で約9.4万人を動員いたしました。

MD事業では、大型コンサートの開催に伴い関連グッズの販売が好調に推移し業績に寄与いたしました。その他にも原宿でギャラリーとカフェが一体となったNCTのポップアップ空間『NCT@XYZ』をオープンいたしました。このようなポップアップは、今後もコンサート開催の有無にかかわらず定期的にオープンする予定です。またNCT DREAMのファミリーマート限定グッズや、アミューズメント専用景品なども販売し、多くの人にとって身近な場所でグッズを目にする機会を増やすことで認知度向上とファン獲得のPRにも力を入れています。

音楽事業では、CHEN (EXO) の1stミニアルバム「ボラリス」(8月17日)をリリースいたしました。またKAI (EXO) の日本ソロライブ『KAI Japan Special Live 2023』、EXO約5年振りのファンクラブイベント『EXO-L-JAPAN presents EXO CHANNEL "THE BEST"』、SUPER JUNIOR約5年振りのドーム公演『SUPER JUNIOR WORLD TOUR - SUPER SHOW 9 : ROAD in JAPAN』のDVD&Blu-rayも発売いたしました。

その他活動では、7月27日からNCT New Team(仮)のメンバーを決めるデビューサバイバル番組「NCT Universe: LASTART」(日本テレビ、Hulu等)が放送されました。当番組で選ばれたメンバーがプレデビューし、10月に行われた東京公演では計2日間で約8千人を動員しました。日本を中心に活動予定のNCT New Team(仮)は、来年正式デビューを予定しており、第4四半期には全国9都市で24公演のファンイベントを行い、プロモーション活動に注力してまいります。

この結果、売上高は5,507百万円(前年同期比85.3%増)、セグメント利益は596百万円(前年同期比329.9%増)となりました。

(ライツ&メディア事業)

ライツ事業では、韓流コンテンツの人气が継続しておりアーカイブ作品の視聴需要も高まっているため、保有作品の有効活用に注力しています。しかしながら、OTTサービス事業者への大型納品が上半期に集中したため当第3四半

期においては売上が減少しています。第4四半期には「夫婦の世界(原題)」など複数のアーカイブ作品がCSやBS上で放送されることが決定しています。

メディア事業では、インドネシア・ジャカルタにて9月23日に開催された大型イベント「SMTOWN LIVE」をKNTVにて生放送した結果、9月の新規加入者は本事業年度における月間平均数の約3倍にのぼり、新規加入者獲得に大きく寄与いたしました。その他にも日本初放送の「SUPER JUNIOR-L.S.S. Let's Standing Show」、KAI(EXO)初のソロコンサート「#Cinema - KAI : Kloor」、BoAの20周年記念コンサート「BoA 20th Anniversary Live - THE BoA : Musicality」といったK-POPプレミアムコンテンツを放送しK-POPファンの新規獲得を促進いたしました。また、韓国地上波MBCで今年放送されたばかりの最新作「朝鮮弁護士(原題)」や、チェ・スヨン(少女時代)出演ドラマ「あなたが願いを言えば」など、多数のドラマ作品を日本初放送し加入者維持に努めています。当第3四半期においては編成ラインナップ強化のための費用が利益を一時的に押し下げる結果となっておりますが、新規加入者の増加は長期に渡って業績に寄与する見込みです。

この結果、売上高は1,992百万円(前年同期比21.2%減)、セグメント利益は293百万円(前年同期比65.1%増)となりました。なお、前年同期におきましては株式会社Beyond Live Corporationが子会社であったことから、当第3四半期連結累計期間における売上高は減少しています。

(その他事業)

その他事業では、売上高は0百万円(前年同期比90.9%減)、セグメント損失は25百万円(前年同期は29百万円のセグメント損失)となりました。なお、株式会社エブリシングジャパンが運営するカラオケアプリ「everysing」につきましては、11月6日にサービス終了を予定しています。不採算が続いていた本サービスを終了することで、来期以降の連結業績の改善が予想されます。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は13,573百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,505百万円増加いたしました。流動資産は10,580百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,455百万円増加いたしました。その主な要因は、現金及び預金が910百万円減少したものの、売掛金が2,378百万円増加、コンテンツ事業権が457百万円増加及びその他が671百万円増加したことによるものであります。また、固定資産は2,992百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,049百万円増加いたしました。その主な要因は、投資有価証券が1,050百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債は5,833百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,459百万円増加いたしました。流動負債は4,930百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,091百万円増加いたしました。その主な要因は、買掛金が1,752百万円増加したことによるものであります。また、固定負債は903百万円となり、前連結会計年度末に比べ367百万円増加いたしました。その主な要因は、繰延税金負債が363百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は7,739百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,045百万円増加いたしました。その主な要因は、その他有価証券評価差額金が408百万円増加及び非支配株主持分が266百万円増加、親会社株主に帰属する四半期純利益318百万円により利益剰余金が増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年12月期の連結業績予想につきましては、2023年2月14日の「2022年12月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に現時点で変更はありません。第4四半期においては、来年正式デビュー予定のNCT New Team(仮)のプレデビューイベントを9都市24公演、東方神起のファンクラブイベントを2都市10公演予定しており、来期のコンサート開催に向けたプロモーションに注力してまいります。このような特別イベントは通常コンサートに比べてチケット単価が低く設定されていますが、新たなファン獲得のための先行投資として戦略的に開催を予定しています。今後、状況の進展や事業動向等を踏まえ、業績上昇予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,415,764	2,505,304
売掛金	2,609,273	4,987,641
商品	20,364	-
番組勘定	546,027	461,181
コンテンツ事業権	1,077,648	1,535,366
前渡金	109,834	76,590
その他	347,716	1,018,799
貸倒引当金	△2,371	△4,844
流動資産合計	8,124,257	10,580,039
固定資産		
有形固定資産	20,637	23,455
無形固定資産	22,259	16,316
投資その他の資産		
投資有価証券	1,854,497	2,904,556
その他	149,045	151,518
貸倒引当金	△102,866	△102,866
投資その他の資産合計	1,900,676	2,953,208
固定資産合計	1,943,574	2,992,980
資産合計	10,067,832	13,573,019
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,252,070	4,004,837
契約負債	258,166	101,456
賞与引当金	61,598	-
その他	267,210	824,122
流動負債合計	2,839,045	4,930,416
固定負債		
繰延税金負債	523,408	886,624
その他	12,220	16,931
固定負債合計	535,628	903,555
負債合計	3,374,674	5,833,971
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,041,970	6,042,188
資本剰余金	3,438,996	3,439,214
利益剰余金	△4,161,943	△3,843,004
自己株式	△33,087	△33,115
株主資本合計	5,285,935	5,605,284
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	767,614	1,176,488
その他の包括利益累計額合計	767,614	1,176,488
新株予約権	310,161	361,697
非支配株主持分	329,447	595,577
純資産合計	6,693,157	7,739,047
負債純資産合計	10,067,832	13,573,019

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
売上高	5,506,182	7,499,871
売上原価	4,331,976	5,875,623
売上総利益	1,174,205	1,624,248
販売費及び一般管理費	1,292,731	1,257,654
営業利益又は営業損失(△)	△118,525	366,593
営業外収益		
受取利息	1,679	1,388
為替差益	9,629	7,266
業務受託料	1,493	1,218
受取家賃	1,760	—
その他	184	177
営業外収益合計	14,746	10,050
営業外費用		
支払利息	67	25
その他	336	6
営業外費用合計	403	32
経常利益又は経常損失(△)	△104,182	376,612
特別利益		
固定資産売却益	1,225	—
新株予約権戻入益	13,276	—
関係会社株式売却益	134,467	—
特別利益合計	148,969	—
特別損失		
減損損失	67,229	1,720
特別損失合計	67,229	1,720
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△22,443	374,892
法人税、住民税及び事業税	15,392	67,791
法人税等調整額	562	—
法人税等合計	15,955	67,791
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△38,398	307,100
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△3,369	△11,839
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△35,028	318,939

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	△38,398	307,100
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,069,005	686,843
その他の包括利益合計	△2,069,005	686,843
四半期包括利益	△2,107,404	993,944
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,266,695	727,813
非支配株主に係る四半期包括利益	△840,708	266,130

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	エンター テインメント 事業	ライツ& メディア 事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	2,972,561	2,528,324	5,500,885	5,297	5,506,182
外部顧客に対する売上高	2,972,561	2,528,324	5,500,885	5,297	5,506,182
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,000	2,212	4,212	—	4,212
計	2,974,561	2,530,537	5,505,098	5,297	5,510,395
セグメント利益又は損失(△)	138,850	177,504	316,354	△29,736	286,617

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、カラオケのアプリ事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	316,354
「その他」の区分の利益	△29,736
全社費用(注)	△405,142
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△118,525

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに配賦していない管理部門等に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

ライツ&メディア事業セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当第3四半期連結累計期間における当該減損損失の計上額は65,401千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2023年1月1日 至 2023年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	エンター テインメント 事業	ライツ& メディア 事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	5,507,205	1,992,184	7,499,389	481	7,499,871
外部顧客に対する売上高	5,507,205	1,992,184	7,499,389	481	7,499,871
セグメント間の内部売上高又は振替高	4,000	-	4,000	-	4,000
計	5,511,205	1,992,184	7,503,389	481	7,503,871
セグメント利益又は損失(△)	596,962	293,096	890,059	△25,684	864,374

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、カラオケのアプリ事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	890,059
「その他」の区分の利益	△25,684
全社費用(注)	△497,780
四半期連結損益計算書の営業利益	366,593

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに配賦していない管理部門等に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

ライツ&メディア事業セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当第3四半期連結累計期間における当該減損損失の計上額は1,720千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。